

学校法人 滋慶文化学園 福岡デザインコミュニケーション専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【平成30年6月14日実施】

平成29年度自己点検自己評価(平成29年4月1日～平成30年3月31日)による

学校関係者評価委員氏名【 】

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切…2 不適切…1			適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切…2 不適切…1	
1 教育理念・目的・育人人材像	1-1 理念・目的・育人人材像は定められているか	4	<p>■組織目的 学校法人滋慶文化学園・福岡デザインコミュニケーション専門学校(FCA)は、「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッション(使命)とする。</p> <p>■建学の理念 「実学教育」 「人間教育」 「国際教育」 を実践し、</p> <p>■4つの信頼 「学生、保護者からの信頼」 「業界の信頼」 「高校の先生の信頼」 「地域の方の信頼」を得られるように学校運営を行う。</p> <p>■育人人材像 FCAは「産学連携教育」…業界が求める人材を業界と共に育成する教育…を通して、社会に貢献できる「人に感動と喜びを与える人材」を育てている。</p> <p>そのカリキュラムの中心を成すのが「企業プロジェクト」というプログラムである。これは、企業の商品化を目指した作品作りを企業からの課題として業界からの指導を通して実践的に学ぶもので、まさに即戦力育成につながっている。</p>	<p>滋慶学園グループの「職業人教育を通じて社会に貢献する」というミッションの下で、教育理念、目的、育人人材を明確に定めている。またそれを学生便覧、教育指導要領等に文章化することで、すべての学生、保護者、教職員、講師に周知徹底している。</p> <p>また、3年制・4年制教育を教育の利点・強みとしており、業界が求める人材を業界と共に育成する産学連携教育を通して、「業界と共に3年間・4年間でく売れるデザイン」<勝てるデザイン>が作れるベストクリエーターを育成する」という教育目的は、学外に対しても、ホームページや学校案内などで幅広く公表し、業界が求める即戦力の人材育成として業界からの支持も得ている。</p> <p>「職業人教育を通して社会に貢献する」という使命とその実現の為の「実学教育」、「人間教育」、「国際教育」といった理念を、教職員、業界、学生、保護者に周知徹底するためには、常に継続的な活動が必要となってくる。特に最も重要なのは、すべての学校職員がこの理念を共有する事であり、新しい入職者に対して常にこの理念が共有できる環境を整える事が重要であり、日々の朝礼や会議、研修等を通して繰り返し行なう事が重要となってくる。</p> <p>また、業界が求める人材としてのマインドは不変のものであるが、スキルは常に変化しており、この変化にいち早く対応するために、業界と常に関わる事が重要である為、「企業プロジェクト」や「インターンシップ」といった業界と密接にかかわるカリキュラムは、企業・業界からの要請に対して取り組むだけでなく、こちらから企業に対して、今以上にできるだけ数多く提案しさらに実行する事が重要と思われる。</p>	4	<p>・学校法人として適切である。</p> <p>・産学連携教育は今後ますます重要になってくると思います。今後は企業プロジェクトやインターンシップ以外にも新たな取り組みが必要かもしれません。</p> <p>・業界が求める人材育成については、技術力だけでなく人間力も必要ではないでしょうか。そのための分析も必要だと思います。</p>
	1-2 学校の特色は何か					
	1-3 学校の将来構想を抱いているか					
2 学校運営	2-4 運営方針は定められているか	4	<p>運営方針は、明確な目標を定めた事業計画書(項目は右記特記事項参照)の中で定められており、1年間の行動指針となっている。またこの指針に沿って各部署(広報・教育・就職・総務経理)の方針も確定される事になっており教職員への周知もできている。</p> <p>事業計画は中長期的な計画から、単年の計画まで、明確に定められており、中長期の目標にむけて、単年度見直しながら、執行体制や業務分担を明確に定め学校の運営は行われており、全く問題なしと思われる。</p> <p>理事会をはじめ、学内における委員会など、学校運営に必要な組織は、すべて適切に設置されており、規則・規制の整備ならびに、運営上大切な職員の育成においても、研修を中心に行なわれている。</p> <p>職員の意欲や業務改善の為に研修や給与の規定についても、明確に決められており、今後は、職員の意欲の向上の為に、この給与等の規定などの開示にも更に積極的に取り組んでいく事も必要かと思われる。</p> <p>意思決定に関しても、事業計画書の中で、決定案件に応じた数多くの決定方法を整備しており、すべて円滑に運用されている。</p> <p>情報データはグループ内のサポート企業により、システムの開発から運営管理まで行っており、情報データに関しては一元化で効率が図られると共に、姉妹校との共有化も可能となっている。</p>	<p>■事業計画書の内容は以下の通り</p> <p>I. 組織の目的</p> <p>II. 組織の運営</p> <p>(1) 計画体系</p> <p>1. 運営方針</p> <p>2. 目標(定量的目標、定性的目標)</p> <p>3. 実行方針</p> <p>4. 実行計画</p> <p>① 組織図</p> <p>② 職務分掌</p> <p>③ 人事採用計画</p> <p>④ 広報計画</p> <p>⑤ 広報年間計画</p> <p>⑥ 学科・専攻のイノベーション</p> <p>⑦ 新規事業</p> <p>⑧ 年間スケジュール</p> <p>(2) 仕組みとルール</p> <p>1. インセンティブシステム</p> <p>2. 業績評価システム</p> <p>3. 意志決定システム</p> <p>III. 5年後の将来</p> <p>IV. 自己点検・自己評価</p> <p>更に単年から5年後の収支予算書を持って事業計画書としている。</p> <p>■新卒の初任給の規定を含め職員の基本給は、総務人事委員会のモデル案を下に規定されており、初任給においては地域に応じた調整給での差異が設けられている。</p> <p>■情報システムとして以下代表的なものがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ASシステム ・出席管理システム ・サクセスナビ ・広報システム 	4	<p>・精度の高い運営方針である。</p> <p>・2-7「人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか」は今後重要だと思います。人手不足は深刻化するのではないのでしょうか。</p>
	2-5 事業計画は定められているか					
	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか					
	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか					
	2-8 意思決定システムは確立されているか					
	2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか					

学校法人 滋慶文化学園 福岡デザインコミュニケーション専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【平成30年6月14日実施】

平成29年度自己点検自己評価(平成29年4月1日～平成30年3月31日)による

学校関係者評価委員氏名【 】

大項目	点検・評価項目	自己評価		点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切…2 不適切…1				適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切…2 不適切…1	学校関係者評価委員よりの御意見
3 教育活動	3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	4		滋慶学園の「職業人教育を通じて社会に貢献する」というミッションを大前提として、業界が求める「人材」を育成していくための産学連携教育を柱に教育を行っている。	滋慶学園COMグループ「コミュニケーションアーツ教育部会」において学園全体の教育理念のもと産学連携教育カリキュラムの構築、方針・計画を策定し、修業年限内で確実に教育目標を到達できるように取り組んでいる。常に業界ニーズを把握し、先を見越した教育カリキュラムを構築し実施している。	4	<p>・キャリア発達が向上できるカリキュラムである。</p> <p>・産学連携教育の柱である企業プロジェクトについて、デビュー分野のさらなる充実を希望します。</p> <p>・教育活動充実のためには、教員の資質向上が重要なポイントとなる。そのために研修会議等を行って欲しい。</p>
	3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか			【目標の設定】 各専攻の教育目標、育成人材像は、その専攻に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけるため、常に業界に対しアンテナを張り、講師を含めた業界関係者にヒアリングを行い、学校の理念に反映させている。そしてそれを3・4年間のフロー教育の中で、学年毎の到達目標を定めている。	社会的自立のために「人間教育」が、職業的自立のために「実学教育」「国際教育」がそれぞれ大きく役立っている。本校の特色として「プレゼンテーション力」がある。企業プロジェクトを通じた実践によるプレゼンテーションの場を設けており、また「コミュニケーション力」を中心としたキャリア教育を実践している。		
	3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか			【カリキュラム】 「実学教育」「人間教育」「国際教育」の建学の理念のもと、入学時から卒業時までの過程及び卒業時ゴール(到達目標)をしっかりと定め、各学年、各学期で適切な科目履修ができるようにカリキュラムが組まれている。またそれをシラバスとして落とし込んでいる。またその内容は、業界の動向や意見を反映されたものとなっており、その評価も行い、また次年度につなげている。	「産学連携教育」における授業カリキュラムの柱として位置づけ実施しているのが「企業プロジェクト」である。このカリキュラムでは、「コンセプト力」「クリエイティブ力」「プレゼンテーション力」の3つを学び、「イノベーション」「クリエイティブティ」「リーダーシップ」の3つの力を身につけることを到達目標としている。平成29年度の企業プロジェクトは、29のプロジェクトを実施し、13作品が実際に採用された。		
	3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか			【キャリア教育】 業界が求める人間力を高めるという目的をキャリア教育を行うことで育成している。その意義は入学時の導入教育で伝えており、産学連携教育・企業プロジェクトにおいても学んでおり、また専門教材も用意して授業も行っている。また人間育成の重要性を理解させるため、授業外活動においても教育を行っている。	また本校では、通常授業とは別に、業界特別講義や業界特別ゼミを数多く開催することで、目標達成を目指していくこととしている。 (平成29年度特別講義 22回実施、業界特別ゼミ 6ゼミ開講)		
	3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか			【授業評価】 年2回(前期・後期)、在校生に対し授業アンケートを行っており、授業内容だけでなく、講師の指導に関することから、メンタル面に関することまで評価を行っている。この内容は、講師にフィードバックされ、よりよい授業運営・授業改善に活用している。また、アンケート結果は、学生に対し公表も行っている。	専攻ごとの教育目標、育成人材像は、その専攻に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけるため、常に業界に対しアンテナを張り、講師を含めた業界関係者にヒアリングを行い、学校の理念に反映させている。そしてそれを3・4年間のフロー教育の中で、学年毎の到達目標を定めている。		
	3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか			【教員・教員組織】 FDならびにSD研修の実施などにより、教員のスキルアップのための取り組みも行なわれ、非常勤講師についても、毎年研修を行うことで質の向上を図っている。非常勤講師の人材確保においては、通常募集だけではなく、関係業界の協力のもと人材を確保し、配置人数等、毎年カリキュラムとともに見直し、計画を立てて実行している。	本校では、基本的に教職員は学科・専攻のマネジメント、学生指導に専念し、授業は業界人である非常勤講師が行っている。運営に対するスキル向上の為、滋慶科学研究所主催をはじめとした学園内の研修をそれぞれのスタッフが受講している。		
	3-16-1 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか			【成績評価・単位認定等】 明確な基準のもと全ての講師が基準からぶれることなく、評価を行っている。学生に対しても点数や成績の評価基準を学生便覧で明確にしておき、入学時オリエンテーションにおいて説明を行っている。一方では学生の状況に応じて柔軟な対応を行うことで、すべての学生が目標を達成して進級・卒業できる体制を構築している。	講師の採用においては厳正を持って行い、技術・知識だけではなく、人間性の部分においても高いレベルの指導ができる人材を講師として採用している。		
	3-16-2 教員の専門性を向上させる研修を行っているか			【資格・免許取得の指導体制】 クリエイティブは、業界が資格に対してあまり重要視していないため、学校でもそのような業界に合わせた授業カリキュラムを組んでいる。しかし、あってよい資格や、取得勉強することがプラスにつながるものは一部ではあるが取り入れている。	資格に関しては、学内検定資格ではあるが、社会で求められるコミュニケーション力を向上させるために、「JESC認定コミュニケーションスキルアップ検定」試験とその対策授業を実施している。資格は業務に必要ではなくても、就職に有利になったりするため、業界に応じた資格をプログラム系を中心に取得できるカリキュラムを今後取り入れていく。		
	3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか						
	3-18 資格取得の指導体制はあるか						
4 教育成果	4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3		【就職率】 就職率(就職希望者)100%を学修成果の最終目標に学校運営を行っており、3月末現在の就職率は97.7%(昨年同月:95.3%)でした。就職希望の未内定者については、キャリアセンターサポートを受けながら就職活動を継続的に行い、結果的には4月23日の段階で就職率100%となった。早期に内定を獲得している学生は就職活動解禁当初から活動していた学生である。また、合同企業説明会(年2回)や、単独企業説明会を定期的に行うことで、多くのチャンスを提供し就職内定に結びつけている。	【就職率】 全国のクリエイティブ系企業を学内に招いて、FCAの学生だけを対象に、面接、面談まで学内で開催する合同企業説明会(155社年2回計)や単独企業説明会(57社)を実施した。またそのほかにも会社見学会を実施。今後も来校企業数200社を目指して取り組むことで、さらなる就職支援を目指していく。就職希望者の就職率は毎年100%を達成しており、専門職就職はそのうち64%。夏休みを境に専門職就職から、一般職就職へ切り替えていく学生が出てくるため、その学生達をいかに専門職就職へ導いていくかが、専門職就職の割合を向上させていく鍵となる。	3	<p>・AL型授業などを導入する等の学び方の工夫による教育効果の向上が必要か。</p> <p>・入学時に希望している業界就職率を高めるために、学校・企業がより連携していきながら、激変していく現場の情報を共有していきたい。</p> <p>・自己評価は3ですが、適切な対応をしていると思います。</p> <p>・退学率低減への取り組みとして、1年次の入学から夏休み前までの様子を特に細かく把握する必要があるのではないのでしょうか。例えば、出席率以外に授業態度や各授業の課題達成度、また、講師の印象や本人自身がどう感じているかなどを知ることで(達成できなくて必要以上に深刻に考えてしまっている等)早期発見につながると思います。</p> <p>・就職率が学校評価につながっていくので、100%を目指して欲しい。</p>
	4-20 資格取得率の向上が図られているか			【資格・免許の取得率】 クリエイティブは、業界が資格に対してあまり重要視していないため、学校でもそのような業界に合わせた授業カリキュラムを組んでいる。しかし、あってよい資格や、取得勉強することがプラスにつながるものはごく一部ではあるが取り入れている。	専門職就職の割合を向上させるため、企業説明会、企業と連携してのインターンシップや、会社見学会を実施、それを契機に受験を希望する学生は数多い。 【資格・免許の取得率】 学内検定資格ではあるが、社会で求められるコミュニケーション力を向上させるために、「JESC認定コミュニケーションスキルアップ検定」試験とその対策授業を実施している。資格は業務に必要ではなくても、就職に有利になったりするため、業界に応じた資格を取得できるカリキュラムを今後さらに考慮していく。		
	4-21 退学率の低減が図られているか			【退学率低減への取り組み】 毎年、入学者目標と退学者目標を設定し、目標の達成度合いを確認・管理しているので、各年度の数字は明確になっている。中途退学防止のための会議を毎週開催しており、そこで不安のある学生の情報を教職員で共有し連携して対策を行っている。また、その記録は保存されている。心理面では、外部カウンセラーによる相談室を用意している。学習面は特別補講等を行う体制を作っている。	【退学率低減への取り組み】 平成29年度の退学率の結果として、全体の退学率が8.1%(平成28年度:6.7%)の退学者を出してしまった。要因は様々だが、学習意欲を減退して退学してしまう学生が毎年数名出てしまう。早期発見と防止対策のための取り組みのシステムフローを構築し実施していく。		
	4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか			【卒業生の社会的評価】 卒業生の社会的評価や活躍は、教育成果そのものであり、教育成果は目標達成の努力の結果である。また、卒業生実績に関しては積極的に公開することにより在学生のモチベーションアップの向上につなげている。	【卒業生の社会的評価】 卒業生は様々な分野で活躍している。世の人々の暮らしや生活を豊かに楽しく笑顔にすることができるのがクリエイティブ業界の役割ともいえる。表に出ることはあまりないが、行っている仕事の素晴らしさは社会に貢献し評価されている。		

学校法人 滋慶文化学園 福岡デザインコミュニケーション専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【平成30年6月14日実施】

平成29年度自己点検自己評価(平成29年4月1日～平成30年3月31日)による

学校関係者評価委員氏名【 】

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切…2 不適切…1			適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切…2 不適切…1	
5 学生支援	5-23 就職に関する体制は整備されているか	4	<p>【就職等進路】 専門分野での就職を第一に考え、就職の専門部署であるキャリアセンターを設け、専門スタッフが個別指導から就職イベント開催まであらゆる就職支援を行っている。また、インターネットによる求人アクセスや情報のメール送信、就職指導ノートの作成まで、情報、ノウハウ体制の確立を行っている。</p> <p>【学生相談】 学生の相談については、基本的には担任が行うが、担任にも相談できないと考える悩みはSSC(チュードント・サービス・センター)という部署を設け、その解決にあたっている。留学生に対しては、担当を設け、在籍管理や生活指導を行っている。</p> <p>【経済支援】 学生支援機構の奨学金のほか、学園グループ独自の奨学金として、「滋慶奨学金」を用意している。また「学費サポートプランのご案内」の冊子を作成すると共に、分納や延納などすべての経済的支援ができるように努めると同時にデータの管理もコンピュータ管理できている。</p> <p>【健康管理】 毎年実施している健康診断の他に、健康面をサポートする目的で学校グループで慶生会クリニックという歯科、内科の2診療科目のクリニックを運営している。</p> <p>【課外活動】 福岡の姉妹校合同でクラブ活動に取り組んでおり、予算管理から引率や大会への参加や年間の成績管理などクラブ活動担当者により行われている。</p> <p>【生活環境支援】 グループ企業のジケイスペース㈱により、専用寮を運営・管理しており、学生指導をはじめ、利用状況や充足数などの情報も明確になっている。</p> <p>【保護者との連携】 保護者から大切なお子様を預かって育てているということ忘れず意識し、保護者への連絡と保護者との連携が重要である。本校では、4つの信頼というコンセプトを掲げているが、「学生・保護者の信頼」として、保護者の信頼を得ることもその1つであり、そのためには適切な連携をとることが重要である。</p> <p>【卒業生・社会人】 学校の評価は、卒業生が業界で活躍することに直結するため、まずは卒業生の卒業後動向をしっかりと管理できる体制が必要である。そのための同窓会組織を作り、年に一回同窓会総会を実施して情報収集や卒業生間の交流を図っている。</p>	<p>【就職等進路】 企業を校内へ招聘する「合同企業説明会」「単独企業説明会」や、直接会社を訪問する「会社見学会」等の就職イベントを開催。また、業界研修指導まで、学生の為のあらゆる支援として、キャリアセンターが独自の活動を行っている。</p> <p>【学生相談】 SSCは、平成24年度から滋慶学園福岡6校で統一で運営し、滋慶トータルサポートセンター福岡として運営を行っている。ここは専用の場所を学校とは別の場所に設け、相談しやすい環境を整えている。また自習スペースもここに設けて、学校に来れないような学生が、ここで学習することが出来る環境を整えている。また法にのっとり、必要であれば合理的配慮も行っている。</p> <p>【経済支援】 日本学生支援機構の奨学金紹介のみならず、学園としての滋慶奨学金を用意している。また、災害支援策も行っており、熊本震災の被災者に関しては学費減免措置を実施している。</p> <p>【健康管理】 慶生会クリニックは、学生であれば診療料は、学生の健康管理費から負担されるため、何度でも安心して受診することができる。</p> <p>【課外活動】 姉妹校連携クラブ活動だけでなく、学生発案による同好会も発足しており、活発に活動している同好会も多くある。</p> <p>【生活環境支援】 学生及び保護者から費用が高額であるとの意見が多く、全室埋まらない寮がある。設備やサポート等、費用以上の価値をもっと伝えていく事が重要である。</p> <p>【保護者との連携】 担任は日頃から学生だけではなく、保護者とも連絡をとるように心がけています。また、保護者会、三者面談等も実施し、常に保護者と適切な連携をとることを重要と考えている。今後は入学前からの連携も必要と考える。このようなことが、退学率の低減に結びついていると考えている。</p> <p>【卒業生・社会人】 就職後の状況確認を行い、奨学金返還のサポートや再就職のサポートを実施している。デビューを目指す学生・卒業生には卒業サポートとして、姉妹校と連携してデビューバンクという卒業生と業界を結びつけるためのサポートシステムを構築している。</p>	4	<p>・国が給付型奨学金制度へ切り替えてきていることにより、貴校独自の奨学金制度の必要性がある。</p>
	5-24 学生相談に関する体制は整備されているか					
	5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか					
	5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか					
	5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか					
	5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか					
	5-29 保護者と適切に連携しているか					
5-30 卒業生への支援体制はあるか						
6 教育環境	6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	<p>【施設・設備等】 施設、設備は、業界の実情に合わせたものと、最新の機材を取り入れて、授業使用において学生に充分に用意されており、不足があれば毎年の設備計画の中で充足が計られている。また、設備点検や補修なども、サポート企業と密接に提携した上で、毎年必要に応じた整備がなされており、そのための予算の確保も長期的な計画をたてて問題なく運営されている。</p> <p>【学外学習、インターンシップ等】 学外実習、インターンシップ、海外研修は充分な体制をひいており、また学生への案内も周知徹底し、研修後の教育効果の確認も出来ている。</p> <p>【防災・安全管理】 常に、災害が起こりうる事を想定して、起きた場合の対策として、訓練の実施とスタッフの体制をしいている。災害訓練だけでなく、心肺蘇生等の訓練も毎年行っている。また事故が起きた場合の保険等の処置もできている。</p>	<p>【施設・設備等】 学園グループの関連企業のジケイスペース㈱は、学校施設の環境・衛生・点検・補修・改修を担う企業であり、予算を含めて単年から中・長期的な観点で学校のサポートを行っている。また同じ㈱ピスターーツはPC環境メンテナンスにおいて常に学校と共に整備を行っており、学生の学習環境を支えている。</p> <p>【学外学習、インターンシップ等】 インターンシップは単なる学習効果だけではなく、社会人としての意識の向上につながっており、また学生本人が自身のスキルをプレゼンテーションする場となっている。また協力企業においても人材確保の機会として協力をいただいており、毎年インターンシップから多くの内定が生まれている。また、海外実学研修は、アメリカ、イタリアの提携校、協力企業のもとに国際教育の一環として毎年実施している。</p> <p>【防災・安全管理】 防災訓練は学内で行うだけでなく、福岡市と連携し近隣のコンベンションセンターでの実施や、関係機関からの特別講習も行い、行動のみならず、心構えの面でも多くの対策を実施している。</p>	4	<p>・施設・設備環境は充実している。</p> <p>・学生同士の学びに対する覚悟や集中力など、学びの場の空気感の充実を図ることが必要。</p>
	6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか					
	6-33 防災に対する体制は整備されているか					

学校法人 滋慶文化学園 福岡デザインコミュニケーション専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【平成30年6月14日実施】

平成29年度自己点検自己評価(平成29年4月1日～平成30年3月31日)による

学校関係者評価委員氏名【 】

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切に対応・・・4 ほぼ適切に対応・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			適切に対応・・・4 ほぼ適切に対応・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1	
7 学生の募集と受け入れ	7-34 学生募集活動は、適正に行われているか	4	<p>【学生募集活動】 ガイダンスやWebを柱とした資料請求者獲得、DM等配布資料、オープンキャンパス、入学相談まで、コンプライアンスに配慮した適切かつ効果的な活動を実施。広報活動を、将来の職業に向けての自己発見期間と位置づけ、対象者、保護者、高校から賛同を得る。可能な限り多くの方に将来の職業発見、職業意識を持っていただくためにも、様々な機会や高校訪問の機会を用意している。 また、教育成果としての就職実績やデビュー実績が明確となる資料を用意して配布・説明を行っている。</p> <p>【入学選考】 高校の学力や技能審査ではなく、目的意識を重視した面接と作文による合否の判定を行なうことで、入学前の能力ではなく、将来の職業に向けて意欲ある学生を求め内容となっている。本人の志向や資質を計りながら、入学後の授業編成にも、活かされているものとなっている。ただ学力審査の点数による合否の判断ではないので、明確な選考基準として具体的な明記ができていない。</p> <p>【学納金】 業界が求める即戦力を育成するための授業運営・学校経営に向け、最適な金額設定ではあるが、近年学費を理由とした、入学断念の傾向が見られる。各種教育ローンや奨学金を柱に様々な学費サポートプランを用意し、入学から卒業までの学費面を支える準備ができています。</p>	<p>【学生募集活動】 ・Web・ガイダンスからの資料請求者獲得 ・進路決定の早期化に対応すべく高校2年生以下へアプローチ ・校内、会場ガイダンス等、志望者との直接的な接触を重点に、そこからイベント参加者を獲得 ・高等学校からの信頼獲得(高校先生説明会、高校&部活動支援等)</p> <p>【入学選考】 ・進路選択早期化に応じ、本人の意欲を重視するAO入学を実施 ・出願者本来の目的意識を引き出すための面接を実施 ・遠方からの出願者に向け、各地方選考会を開催 ・障害者差別解消法の実践の一つとして、入学予定者の合理的配慮の対応を滋慶学園本部組織の滋慶トータルサポートセンターと連携して実施している。</p> <p>【学納金】 ・募集要項に卒業までに必要な学納金をすべて明示 ・学費サポートプランのツールを用意 ・学費ファイナンシャルプランナーを配置し、個々の状況に応じた対応</p>	4	<p>・適切である。</p> <p>・高校で出向く際に、在校生のOB・OGも同行して、学校での取組みや高校時代に考えていた事などを話す機会があると、目指そうとする学生にも身近に感じることができるのではないかと。</p>
	7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか					
	7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか					
	7-37 学納金は妥当なものとなっているか					
8 財務	8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	<p>【財務基盤】 財務は学校運営を行う上で重要な要素の一つである。特に予算(収支計画)は学校運営に必要不可欠なものであって、いかに予算が正確でかつ実現可能なものであるかが重要である。これについては、毎年事業計画書を作成し、5ヶ年の収支予算を立てている。 その中で入学者数、在校生数、退学者等を勘案して学費明細を作成し、収入予算の推移を把握しており、その中で入学者の減少があっても健全な学校運営ができるように安定した財務基盤が築けている。</p> <p>【予算・収支計画】 予算の編成は、中・長期収入に応じたバランスで編成しており、整合性が図られている。また執行においても、執行の規定を設け、適正な執行がなされており、予算項目ごとに予算が決まれば、その項目予算が超過できない仕組みになっており、適切なチェック体制も整っている。</p> <p>【監査】 会計監査についてであるが、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成していると考え。 監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。</p> <p>【財務情報の公開】 財務情報公開については、平成17年からの私立学校法の改正に基づき整備され、学校法人の財務情報公開を規定し、マニュアルに即した形で行っている。また認定を受けた職業実践専門課程の財務情報公開も適切に行っている。</p>	<p>予算を正確かつ実現可能にするために以下のような取り組みを行っている。</p> <p>①単年度の予算を綿密に作成している。 予算は、事業計画の時点で、各部署ごとの予算から、予算項目別に細かく分類し、執行に関しても全て事前に、事務局長承認と常務理事承認が必要で、金額によっては、本部承認を得る流れとなっている。また消化金額は毎月の学内チェックと、サポート企業による3ヶ月ごとの修正と評価を受ける。</p> <p>②中長期(5ヶ年)での予算計画も組まれており、特に設備造作における改装や改築などの大掛かりな支出が想定されるものは長期で計画を行っている。</p> <p>また、私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。</p> <p>「財務情報の公開」については、規程と「情報公開マニュアル」に則して、情報公開に対処している点の特徴として挙げることができる。</p>	4	<p>・学校法人として適切な財務である。</p>
	8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか					
	8-40 財務について会計監査が適正に行われているか					
	8-41 財務情報公開の体制整備はできているか					

学校法人 滋慶文化学園 福岡デザインコミュニケーション専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【平成30年6月14日実施】

平成29年度自己点検自己評価(平成29年4月1日～平成30年3月31日)による

学校関係者評価委員氏名【 】

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切…2 不適切…1			適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切…2 不適切…1	
9 法令等の遵守	9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	<p>法令遵守については、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断し、また学校運営(学科運営)が適切かどうかは次の各調査等においてチェックできるようにしており、評価結果、教育情報の情報公開を行っている。</p> <p>①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基礎調査 ④専修学校各種学校調査 ⑤学校施設認定規則に基づく報告等 である。</p> <p>また、組織体制強化やシステム構築のために以下のようなシステムならびに組織体制の運営がなされている。</p> <p>■組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ)</p> <p>■管理システム ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④機材購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピューター管理システム(滋慶学園グループ)</p> <p>滋慶学園というグループ力、スケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムを構築、稼働させることで、各学校が健全に運営できるようにしている。法令や設置基準の遵守に対する方針は明確化されており、体制作りについては完全に整備されている。</p>	<p>法令や専修学校設置基準の遵守に対する方針は、文章化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りを整備している。</p> <p>教職員へは、法令や設置基準の遵守に関する教育または研修を実施し、周知徹底を図っており、今後も継続して行う。</p> <p>本校は、一般社団法人 日本プライバシー認証機構「TRUST-e」の国際規定の認証を受けている。</p> <p>また、職業実践専門課程の規定ならびに滋慶学園の情報公開規定に則り、公開していき、情報公開の方法は、ホームページへの掲載を通じて広く社会に公開できている。保護の観点から個人情報保護委員会を設置し、対策をとっている。教職員には教育と研修を通じて周知徹底できている。学内のネットワークに関しては、情報の漏洩が生じないよう、アクセス権の設定やグループ内サポート企業のみでの使用措置をとっている。</p> <p>法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。さらに、学校評価に関しては、「職業実践専門課程」の認定に際し、学校関係者評価委員会の設置がなされており、適切に評価を受け、また適切に情報公開もなされている。</p>	4	・適切である。
	9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか					
	9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか					
	9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか					
10 社会貢献	10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	4	<p>滋慶学園グループの『職業人教育を通して社会に貢献する』というミッションのもと、本校が行うあらゆる活動は常に社会に貢献することを念頭に置く。</p> <p>グループでは真の役割を果たすために、『4つの信頼』…①学生・保護者からの信頼、②高等学校からの信頼、③業界からの信頼、④地域からの信頼 を掲げるが、まさにここに挙がる各方面からの信頼を得ることが、社会貢献に直結すると考えており、運営に当たっている。</p> <p>学校の教育資源や施設から創造されるもので社会貢献を行っており、企業に対する貢献から、地域のプロジェクトを毎年行っている。</p> <p>ここで掲げる「社会」とは、グローバルな視点で捉える広義なものから、地域に密着したローカルなものまで、ありとあらゆるコミュニティを意味し、そこに広く貢献していくことが必要であると考えており、今後は「学生のボランティア活動」を「人間教育」の一環としてさらに拡充させていきたいと考える。</p>	<p>産学連携教育の一環で取り組む「企業プロジェクト」は毎年、約30社の企業からの制作依頼で取り組んでおり、一つの社会貢献・地域貢献となっている。</p> <p>平成29年度実績 ・企業プロジェクト数 29プロジェクト (採用プロジェクト 13プロジェクト)</p> <p>・地域・社会貢献事業の推進一例 【平成29年度企業課題取組例】 博多祇園山笠振興会公認団体讃合会「博多祇園山笠扇子デザイン」 CROSS FM「声優スタジアム2017 イベントロゴ・応募者募集ポスター制作」 「声優スタジアム2017 オーディション時に使用するアフレコ用動画制作」</p>	4	<p>・貴校を出て社会に出た時の社会貢献について、日ごろから学ばせて欲しい。</p> <p>・企業プロジェクトの周知、いわゆる「ブランディング」をもっと考えてはいかがでしょうか。また、成果のフィードバックも含めて考える余地はあるかと思えます。</p> <p>・学校でイベント等が行われる場合、地域にPRして良いのではないかと。そのためには、地域の祭り等にもぜひ参加して欲しい。</p>
	10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか					